

量詞“身”の通時的発展

島健太

kshima1138@gmail.com

キーワード：中国語 量詞 臨時量詞 コーパス言語学

要旨

中国語には、名詞を量詞のように用いる臨時量詞という用法がある (朱 1982)。そのうちの「描写性臨時量詞」には、計量機能ではなく、領域の遍満状態を表す機能がある (加納 2017)。「身体」を意味する“身”は描写性臨時量詞として用いることができるうえに、衣服を計量する通常の量詞としての用法もある。本論文は“身”の2つの用法の共通点・相違点を整理したうえで、コーパス調査によって両者の通時的発展を整理する。結果として、(a)“身”の中心的用法は「付着物」を導くものであること、(b)この「付着物」を導く用法から「衣服」を導く用法に拡張し、量詞としての機能を獲得したこと、(c)“身”を含む“一+身+名詞”構造が通時的に叙述機能を発展させてきたことが明らかになった。

1. はじめに

中国語の単語“身”には、数詞と結びついたうえで名詞を修飾し、類別と計量の機能を果たす量詞用法がある。(1)では数詞“三”と結びついて“新衣服”を修飾し、衣服を数える量詞の機能を果たしている。

- (1) 回到 火店乡 食品站, 站里 派人 给 孩子 买了
戻る 火店郷 食品センター センター内 人を送る BEN 子供 買う-PERF

三身 新衣服。

三-CLF.clothes 新しい衣服

「火店郷の食品センターに戻ると、子供のために 3 着新しい服を買ってくるように人を送った。」

(当代/1996 年人民日報)

一方で、数詞“一”と結びついて名詞を修飾し、類別や計量ではなく、「体中 N まみれ」というような「領域の遍満状態」(加納 2017)を表す描写性臨時量詞(第2節で詳説する)の用法もある。(2)は、“冷汗”を“身”が計量している(つまり「身体1つ分の冷や汗」という意味)のではなく、“四太太”の全身が冷や汗にまみれている様子を表現している。

(2) 四太太 吓得 一身 冷汗, ...

四奥さん 脅かす-COMP 一身 冷や汗

「四奥さんは驚いて全身冷や汗をかき、...」

(当代/遲子建『原始風景』)

“身”の2つの用法がどのような関係にあるのか、特に通時的にどちらが先に発展してきたのか等の記述はいまだなされていない。

臨時量詞は器官名詞が担うことが多く (cf. 第 2.1 節)、「身体」を意味する“身”は特に、導く対象の意味が多岐にわたり、用例数も多い。そのため、“身”の用例を調査し、その特徴を明らかにすることは、臨時量詞の本質に迫ることにつながる。

本論文は、量詞と臨時量詞にまたがる“身”の特徴を明らかにすることで、臨時量詞という現象の一端を明らかにする。具体的には、“身”の量詞用法と臨時量詞用法が互いにどのような関係にあるのかをさらに明らかにするため、コーパスを用いて通時的発展を整理する。本論文の構成は以下のとおりである。第2節は量詞と臨時量詞について一般的な情報を整理し、さらに“身”個別の事情をまとめる。第3節と第4節は調査方法と結果を述べ、第5節でそれを分析し、第6節でまとめる。

2. 背景

2.1. 量詞・描写性臨時量詞

中国語の量詞は、数詞と結びついたうえで名詞を修飾し、類別や計量の機能を果たす。(3) のゴチック体の部分が量詞である。

- (3) 一个人 [1 人の人], 两只猫 [2 匹の猫], 三张桌子 [3 つのテーブル],
四枝铅笔 [4 本の鉛筆], 五头牛 [5 頭の牛]

「描写性臨時量詞」(加納 2017) は、名詞を量詞として用いる臨時量詞(朱 1982)の一種である¹。通常的量詞に対して、以下のような相違点を持つ(加納 2017: 50)。

- (4) a. 共起する数詞は“一”に限る。
b. 後ろに連体修飾標識の“的”が挿入できる。
c. 計量機能ではなく「...一面の...」という領域の遍満状態を表す機能を持つ。

以下の例では、ゴチック体の臨時量詞が数詞“一”と結びついたうえで名詞を修飾しているが、

¹ 他に、非可算の事物を可算化し、計量のための単位として用いることのできる「計数臨時量詞」がある(加納 2017: 50)。“一口袋面 [ポケット1つ分の小麦粉]”などである(朱 1982)。

計量の意味は表さない。つまり、「テーブル1つ分の埃」や「足1本分の泥」という意味ではなく、臨時量詞の表す「テーブル」や「足」が修飾されている名詞の表す「埃」や「泥」で満たされているという状況を表現する。

- (5) a. 一 桌子 土
 一 テーブル 埃
 「テーブル中埃まみれだ」 (朱 1982)

- b. 一 脚 泥
 一 足 泥
 「足が泥まみれだ」 (同上)

さらに、描写性臨時量詞は、(2c) のような特殊な機能を持つことと関連して、以下の重要な特徴を持つ。描写性臨時量詞を用いた名詞句は、述語の位置に分布する場合がある (加納 2017; 殷 2000)。このことがなぜ重要かといえば、中国語において名詞句がコピュラ“是”を伴わずに直接述語を担うこと (「名詞述語文」と呼ばれる) は常に可能なわけではないからである。名詞述語文の成立には、様々な制約が指摘されており、その一つに、名詞述語文において述語を担う名詞句は「描写」か「分類」のどちらかを行っているというものがある (小野 2008)。描写性臨時量詞を含む名詞句はそのうち「描写」機能を担うことができると考えられる²。

描写性臨時量詞を用いた名詞句が述語を担うことができ、「描写」を行っているという事実は、Croft (2001: 66) が品詞の類型論の議論の過程で整理した 3 つのコミュニケーション上の機能 (指示、修飾、叙述) のうち、指示機能のみならず叙述機能も持っているといえなさることができる。以下の (6) は、“一身冷汗”がコピュラ“是”を伴うことなく述語の位置で叙述機能を果たしている例である。

- (6) 苏宇 在 睡梦 中 的 哭声 惊醒了
 蘇宇 PROG 熟睡する 時 NMLZ 泣き声 目を覚まさせる-PERF

他 母亲, 母亲 叫醒 他 时, 他 一身 冷汗,
 彼 母親 母親 起こす 彼 時 彼 一身 冷や汗

心脏 都 跳疼了, 母亲 训斥 他: ...
 心臓 も ずきずき痛む-PERF 母親 叱る 彼

「蘇宇の寝ているときの泣き声が母親を起こして、母親が彼を起こしたとき、彼は全身冷や

² 加納 (2017: 67) は、描写性臨時量詞は「事物と一体化して捉えなおされた (その意味において主観的な) 領域」を表すと分析している。

汗まみれで、心臓もずきずき痛んだ。母親は叱りつけて曰く…」

(当代/余華『在細雨中呼喊』³⁾)

描写性臨時量詞には、“身”や“臉”[顔]のような身体部位を表す器官名詞を用いることが多い(刘 2007)。器官名詞を用いた臨時量詞に後続する名詞の意味特徴を刘(2007: 76)が(7)、(8)のように分類している。例は筆者が追加した。

(7) “人体的某一部分存在的某种事物”[人体のある部分に存在する事物]を導く場合

a. 中心語指某种附着于人体上的外界事物或人体产生的事物，多为具体的物质名词[主要部は人体に付着した外界の事物あるいは人体が産出する事物を指し、多くは具体的な物質名詞である]

例：一身泥[泥]、一身汗[汗]

b. 中心語仍是具体名词，但它本身已成为身体一部分或与身体形成了不可分割的关系[主要部は具体名詞だが、それ自体がすでに身体の一部であるか、身体とともに不可分の関係を形成する]

例：一身白肉[色白の肉体]、一身伤疤[傷跡]

(8) “思想、感情、行为方式、知识、信息”[思想、感情、行為方式、知識、情報]を導く場合

例：一身虎威[あたりを払う威風]、一身本事[才能]

本論文では、(7)を「具体物」、(8)を「抽象物」と呼び、「具体物」の下位分類である(7a)、(7b)をそれぞれ「付着物」、「容姿」と呼ぶ。

2.2. 量詞/描写性臨時量詞“身”

“身”には、前節で挙げた“一身冷汗”のような描写性臨時量詞としての用法のほか、上下ひとそろいの衣服を計量する(通常の)量詞の用法もある。(9)を参照せよ。

(9) 严冬 腊月 只 有 一身 较薄的棉衣裤, 没有 帽子, ...

厳冬 臘月 のみ ある 一-CLF.clothes 薄手の綿の衣服 ない 帽子

「厳冬の臘月、あるのは一そろいの薄手の綿の上下だけで、帽子もない、…」

(当代/1994年新聞精選)

(9)では、「事物と一体化して捉えなおされた(その意味において主観的な)領域」(加納

³ これ以降の例文はすべて、CCL コーパス (cf. 第3節) 中の用例である。コーパス上の時代区分と、出典を示す。

2017: 67) としての身体は含意されず (衣服は誰かに着られて身体と一体化した状態でなくてもよい)、描写性臨時量詞の用法と区別される。

通常の量詞の用法では、共起する数詞は“一”に限らず、その場合は確実に臨時量詞と区別できる。(10)、(11) を参照せよ。

- (10) 回到 火店乡 食品站, 站里 派人 给 孩子 买了
 戻る 火店郷 食品センター センター内 人を送る BEN 子供 買う-PERF

三身 新衣服。

三-CLF.clothes 新しい衣服

「火店郷の食品センターに戻ると、子供のために 3 着新しい服を買ってくるように人を送った。」

(当代/1996 年人民日報)

- (11) 当 听说 战士们 一年 训练 下来 要 穿破
 に当たって 聞く 兵士-PL 一-CLF.year 訓練する 続ける 必ず 履き潰す

七八双 军鞋, 磨破 四五身 训练服 时, ...

七八-CLF.pair 軍靴 擦り切らせる 四五-CLF.clothes 訓練服 時

「兵士たちは1年間の訓練で、7、8足の軍靴を履きつぶし、4、5着の訓練服を擦り切らせると聞いた時、...」

(当代/1996 年人民日報)

また、他の量詞と同様に、序数と結びつくことも可能である。(12) を参照せよ。

- (12) 新娘 的 第三身 衣服 为 红色 旗袍, 鳳的刺绣图案 精致 优雅。

花嫁 GEN 第三-CLF.clothes 衣服 COP 赤い 旗袍 鳳凰の刺繍図案 精緻 優雅

「花嫁の3番目の衣装は、鳳凰の模様が刺繍された精緻で優雅な赤い旗袍だった。」

(当代/1998 年人民日報)

衣服を計量する“身”と描写性臨時量詞の“身”には共通点もいくつかある。そもそも“身”で衣服を数えるのは、隣接関係に基づくメトニミーによるものと考えられ、事物と領域の一体化を表す描写性臨時量詞と動機が似ている。衣服を(7)の「付着物」と分類することも不可能ではない。両者の近さが形式に現れる例として、数詞が“一”のときは衣服を計量している場合であっても臨時量詞のように述語の位置に現れて叙述機能を担うこともあるということが挙げられる。(13) では、“李小龙”に対する描写の1つとして、“一身布衣布鞋”が述語の位置に現

れている。

- (13) 作家 羅龍治 说: “李小龙 一身 布衣 布鞋, 土气 十足,
作家 羅龍治 言う ブルース・リー 一-CLF.clothes 綿服 布靴 野暮ったさ 十分

却 一脚 把 番邦 一个 公园 ‘华人 与 狗 不得 入内’
しかし 一足 を 外国 一-CLF.general 公園 中国人 と 犬 NEG-POSS 入る

的 恶狗拦路 的 招牌, 踢得 碎片纷飞。

NMLZ 質の悪い NMLZ 看板 ける-COMP 粉々

「作家の羅龍治は言う。「ブルース・リーは綿服と布靴を身につけ、野暮ったさ十分だったが、外国のある公園の「中国人と犬お断り」という質の悪い看板を粉々に蹴り飛ばした。」

(当代/張小蛇『李小龍的功夫人生』)

また、数詞が“一”のときは、臨時量詞と同じように“的”を挿入する場合がある。(14) を参照せよ。

- (14) 她 穿了 一身的 黑衣裳, 看上去 就像
彼女 着る-PERF 一身-NMLZ 黒衣装 見える まるで 似ている

一只 乌鸦。

一-CLF.animal 鳥

「彼女はひとそろいの黒い衣装を着て、一羽の鳥のようだった。」

(当代/遲子建『額爾古納河右岸』)

(13) や (14) では、“一身”によって修飾されている“布衣布鞋”や“黒衣裳”は、“李小龙”や“她”の身体と一体化している(着用されている)状態であり、描写性臨時量詞の表す遍満状態とも解釈できる。数詞が“一”のときは、“身”は量詞用法と描写性臨時量詞用法を二重に持つ場合があるといえる。

3. 調査方法

“身”の量詞用法と臨時量詞用法が互いにどのような関係にあるのかをさらに明らかにするため、コーパスを用いて通時的発展を整理する。

調査には北京大学漢語語言學研究中心 CCL コーパス (URL: http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus) を用いる。CCL コーパスは現代漢語コーパスと古代漢語コーパスに分かれており、各用例はタグによってさらに細かい時代区分を付与されている。本論

文中で用いるコーパス上の時代区分は以下の表 1 の通りである。また、公開されている時代ごとの総バイト数を元に推計した総字数も参考として同じ表 1 に示す。

表 1: コーパスの時代区分および総字数

コーパス上の時代区分	年代	推定総字数 ⁴
南宋	1127–1279	1,421,839
元	1271–1368	480,942
明	1368–1644	10,519,151
清	1644–1912	24,054,539
民国	1912–1949	17,685,670
現代	1919–1949	7,625,082
当代	1949–	577,474,655

調査の具体的手順を述べる。まず、“数詞+身”の全用例を検索し、“数詞+身+名詞”(以下“Num 身 N”と略記する)で句を形成しているものを選び出す⁵。次に、①その名詞の意味、②“Num 身 N”が文中で果たす機能の 2 つをコーディングする。

①名詞の意味は、第 2.1 節で紹介した刘 (2007) も参考にしつつ以下のように分類した。主要部の意味を見ることは、衣服を数える量詞用法の成立を観察するために欠かせない。

具体物

- a. 「付着物」 例：一身泥 [泥]、一身汗 [汗]
- b. 「衣服」 例：一身衣服 [衣服]、三身新衣服 [新しい衣服]
- c. 「容姿」 例：一身白肉 [色白の肉体]、一身伤疤 [傷跡]

抽象物

- a. 「雰囲気」 例：一身虎威 [あたりを払う威風]、一身傲骨 [硬骨]
- b. 「技術」 例：一身本事 [才能]、一身武艺 [武芸]
- c. 「罪」 例：一身罪名 [罪名]、一身债 [借金]
- d. 「病気」 例：一身病 [病気]、一身疲劳 [疲労]

②“Num 身 N”が文中で果たす機能は、統語的位置に応じて、Croft (2001: 66) の 3 つのコミュニケーション上の機能のいずれかに分類した。コピュラ“是”に後続する場合は、名詞述語文の場合と同様に叙述機能に分類するが、コピュラの有無は名詞述語文か否かを分ける重要な

⁴ 漢字 1 文字が 2 バイトに当たるため、公開されているバイト数を半分に割ることで字数を概ね見積もった。ただし、1 ビットの英数字や記号が混ざっているため、実際の漢字数は半分より少なくなる。

⁵ “一身是 N”「全身が N まみれである」のように、数詞と“身”のなす句が名詞と統語的に離れている例は、今回は対象外とした。

特徴なので、「叙述機能 (是)」としてさらに分けた。この分類の目的は、第2節で指摘したとおりに“Num 身 N”が名詞句の本来持つ指示機能のみならず叙述機能も持っているという事実を、通時的に調査してその経緯を明らかにするためである。

指示機能

主語、目的語 (賓語⁶)、名詞句の一部に分布する

叙述機能 (是)

コピュラ“是”に後続する述語 (表語)

叙述機能

述語 (謂語)、補語に分布する

修飾機能

連用修飾語 (状語)、連体修飾語 (定語) に分布する

4. 調査結果

4.1. “Num 身 N”の初出について

見た目上“Num 身 N”という名詞句をなしているようにも見える最も古い例は、コーパス上で筆者が発見できた限りでは、(15)の『後漢書・志・五行一』のものである。元来志を欠いていた范曄の『後漢書』は、西晋の司馬彪が編纂した『続漢書』の志を合刻して充てているので、本例文の成立は4世紀前後と考えられる。

(15) 灵帝光和元年 南宮寺 雌鸡 化为 雄 一身 毛 皆 似 雄

靈帝光和元年 南宮寺 雌鶏 変わる-成る 雄 一身 羽毛 全て 似ている 雄

但 头冠 尚未 变...

しかし とさか いまだ〜ない 変わる

「靈帝光和元年、南宮侍中寺の雌鶏は雄になりたいと思い、全身羽毛がすべて雄のようだったが、とさかはまだ変わっていなかった...」

(『後漢書・志・五行一』)

東晋の『搜神記』や北宋の『冊府元龜』にもこの文が収録されており、コーパスには重複して出現する。

⁶ 「目的語」に対応する中国語学の用語。表語、謂語、状語、定語もそれぞれ対応する用語である。

(15) の分析には2通りがありうる。一つは、“一身”と“毛”が名詞句を形成しており、後代の“Num 身 N”構文と同様に「全身の羽毛」という意味を表しているという分析である。もう一つは、“一身”と“毛”が名詞句を成しておらず、いわゆる二重主語文の2つの主語に該当するという分析である。本論文は後者の分析を採用し、(15)は“Num 身 N”の初出ではないという立場をとる。もし(15)が“Num 身 N”構文に属すると考えた場合、他の“Num 身 N”がすべて南宋以降に出現するという結果もふまえると、西晋から南宋までおよそ8世紀もの空白が存在することになり、いささか不自然である。反対に、二重主語文の分析を採用した場合、二重主語文は古くから⁷存在するため、(15)の成立には何の不思議もない。

以上の理由から、(15)は“Num 身 N”の初出として扱わない。東晋の『搜神記』や北宋の『冊府元龜』に見える同じ文も考察から外す。

(15)を外すと、“Num 身 N”の最初期の例は、南宋の以下の2例である。

(16) 今 有 姑蘇 賊人 趙正, 欲 来 京 做 买卖, 我 特地
今 いる 姑蘇 盗人 趙正 したい 来る 都 する 商売 私 わざわざ

使 他 来 投奔 你。 这汉 与 行院 无情, 一身 线道,
CAUS 彼 来る 頼る あなた この男 に 遊女 感情がない 一身 肉体

堪 作 你家 行货 使用。

たえる なる あなたの家 粗悪品 使う

「今、姑蘇の盗人趙正がおり、都に来て商売をしたいと思っていますが、私は彼を特にあなたのものに身を寄せさせようと思います。この男は遊女に興味がなく、全身の肉体は、あなたの家の粗悪品として使うことができます（お役に立つでしょう）。」

(南宋/『古今小説・第三十六巻・宋四公大鬧禁魂張』)

(17) 師 後 曰：“吾 因茲 出 一身 白汗”
師 後に 曰く 私 このために 出す 一身 冷や汗
「師は後に曰く、「私はこのために全身冷や汗をかいた」」

(南宋/『五灯会元』)

4.2. “Num 身 N”におけるNの意味

“Num 身 N”におけるNの意味は、数詞が“一”の時(“一身 N”と略記する)は多岐にわたったが、数詞が“一”以外の時はほぼ「衣服」に限られた。“一身 N”のNの意味の時代ごとの数は表2に示した。南宋代に「付着物」と「容姿」が1例ずつあり、「衣服」が元代に出現し、

⁷ 『詩経』に既に存在する。

「容姿」・「抽象物」が明代以降出現する。全体を通して「付着物」＋「衣服」が用例の大半を占める。

表 2: “一身 N” における N の意味

	具体物			抽象物				その他	合計
	付着物	衣服	容姿	雰囲気	技術	罪	病気		
南宋	1		1						2
元	1	5							6
明	77	72	10	16	30	1	2		208
清	193	402	23	27	165	5	6	2	823
民国	86	225	4	9	41	1	1		367
現代	80	127	8	4	1	3	8		231
当代	1393	2476	102	505	408	52	119		5055
合計	1831	3307	148	561	645	62	136	2	6692

図 1 は、時代ごとのコーパスサイズの偏り (cf. 表 1) を考慮するため、相対頻度を示している。各時代の用例数を 100 万語あたりの用例数 (pmw: per million words) に修正したものである。

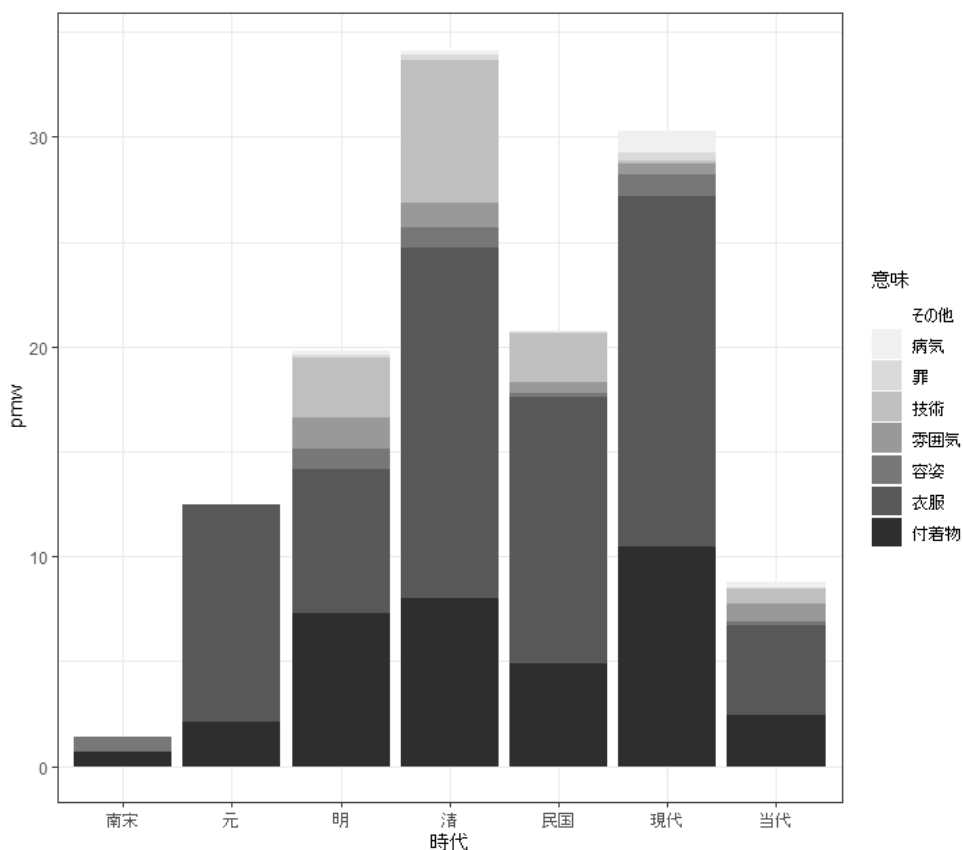


図 1: “一身 N” における N の意味

南宋の2例（「容姿」・「付着物」）は前節の(16)(17)に挙げた。元代の「衣服」の例、明代の「容姿」・「技術」の例を(18)から(20)に挙げる。

(18) 元・「衣服」

列位 大叔， 小人 是 河南人， 来 此 小买卖， 不幸 遇着 歹人，
皆さん おじさん 私 COP 河南人 来る ここ 小商い 不幸 遭う-DUR 悪人

将 一身 衣服 尽 剥去了， 盘费 一文 也 无。

を 一身 衣服 全て 剥ぎ取る-PERF 船賃 一文 すら ない

「おじさん方、私は河南の出で、小商いのためにここに來たのですが、不幸にも悪人に**全身の衣服**をすべて剥ぎ取られ、船賃の一文すらないのです。」

(元/元代話本選集)

(19) 明・「容姿」

何 怕 你 銅頭 鉄腦 一身 鋼， 钯到
なぜ 恐れる お前 銅頭 鉄頭 一身 鋼 (馬鍬で) かきならす

魂 消 神氣 泄！

魂 消える 神氣 漏れる

「お前（＝孫悟空）の銅頭鉄腦や鋼のような**肉体**など恐れるものか、魂が消え神気をぶちまけるほど（九齒釘耙＝猪八戒の武器 で）かきならしてやる！」

(明/『西遊記』)

(20) 明・「技術」

话说 陈州 有 一 姓 徐 名 信， 自小 学得 一身 好武艺，...
さて 陳州 いる 一人 姓 徐 名 信 幼いころより 習得する 一身 よき武芸
「さて、陳州に姓は徐、名は信という者がおり、幼いころより**素晴らしい武芸**を習得していた...」

(明/『警世通言』)

4.3. “Num 身 N” の機能

“Num 身 N” の機能は、数詞が“一”の時には指示機能と叙述機能の両方が存在した。数詞が“一”以外の時はNがほぼ「衣服」に限られるとともに、文中における機能は指示機能に限られた。“一身 N”の時代ごとの各機能の用例数は表3に示した。“一身 N”は初め指示機能の

みで、元代に叙述機能が出現し、叙述機能は以降徐々に割合を増していく。“是”を伴う文の中で叙述機能を担う例と、修飾機能の例はともに明代に出現するが、数は多くない。

表 3: “一身 N” の機能

	指示	叙述 (是)	叙述	修飾	合計
南宋	2				2
元	5		1		6
明	151	2	54	1	208
清	560	27	235	1	823
民国	233	10	120	4	367
現代	171	13	43	4	231
当代	3065	193	1441	356	5055
合計	4187	245	1894	366	6692

図 2 は機能ごとに 100 万語あたりの相対頻度を示している。

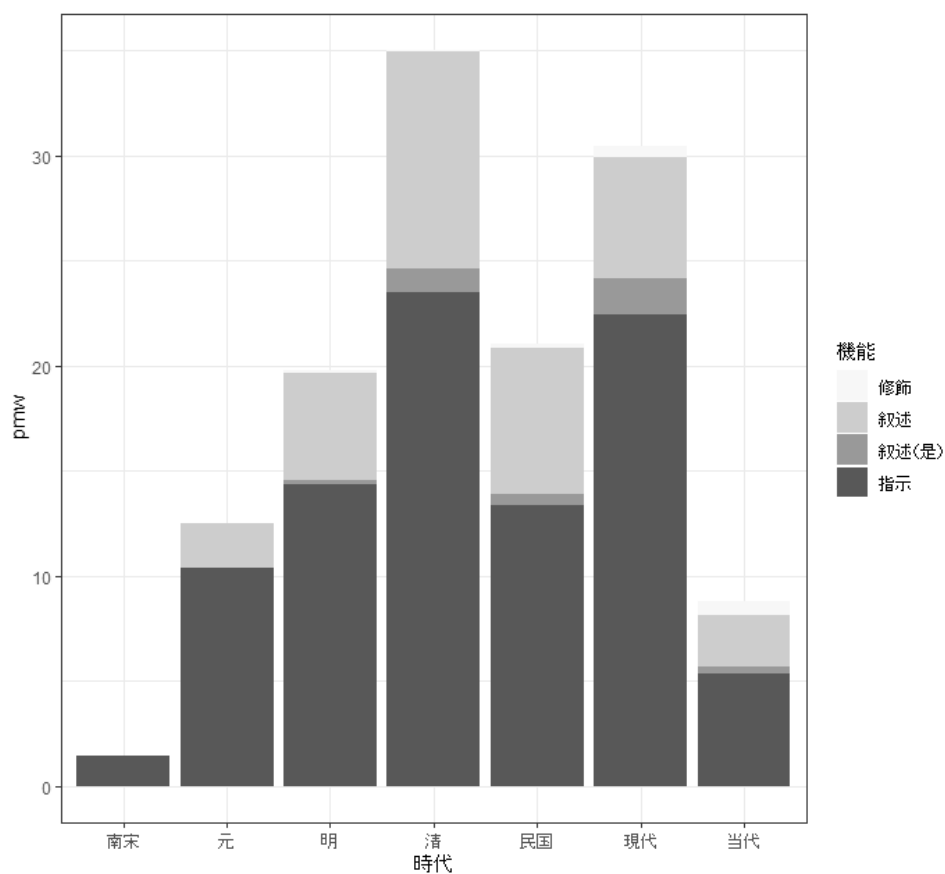


図 2: “一身 N” の機能

元代の叙述機能の例、明代の“是”を伴う叙述機能の文と修飾機能の文、当代のすべての機能の例を (21) から (27) に挙げる。

(21) 元・叙述機能 (述語)

吓得 孟 夫人 一身 冷汗, ...

脅かす-COMP 孟 夫人 一身 冷や汗

「孟夫人が全身汗まみれになるほど脅かす、...」

(元/元代話本選集)

(22) 明・叙述機能 (“是” を伴う述語)

只是 一身 大气力, 雄悍 异常;

ただ-COP 一身 大きい-気力 勇ましい 尋常ではない

「ただただ全身に大気力が満ち、勇ましさは尋常ではない。」

(明/『初刻拍案驚奇 (上)』)

(23) 明・修飾機能 (連用修飾語)

夫人 吃了一惊, 一身 香汗 惊醒。

夫人 驚いた 一身 いいにおいの汗 目が覚める

「夫人は驚き、全身いいにおいの汗をまといながら目が覚めた。」

(明/『喻世明言』)

(24) 当代・指示機能 (目的語)

王秀丽 立刻 急 出 一身 汗, 她 大声 分辩。

王秀丽 すぐに 焦る 出す 一身 汗 彼女 大声 弁解する

「王秀丽はすぐに焦って全身汗をかき、大声で弁解した。」

(当代/1994 年報刊精選)

(25) 当代・叙述機能 (“是” を伴う述語)

赵一荻 女士 是 一身 浅蓝色 便装, 她 面容 白皙 秀发 乌黑

趙一荻 女史 COP 一身 水色 平服 彼女 顔つき 白皙 美しい髪 真っ黒

娴雅 端庄。

上品 端正

「趙一荻女史は全身水色の平服で、容貌は白皙で美髪は黒々とし、上品で端正である。」

(当代/1994 年新聞精選)

(26) 当代・叙述機能 (補語)

四太太 吓得 一身 冷汗, ...
四奥さん 脅かす-COMP 一身 冷や汗
「四奥さんは驚いて**全身冷や汗**をかき、...」

(当代/遅子建『原始風景』)

(27) 当代・修飾機能 (連体修飾語)

同 人們 纷纷 走出 屋子 与 一身 戎装 的 刘 军长
同じように 人-PL 次から次へと 走り出る 部屋 と 一身 軍装 NMLZ 劉 軍長

打躬作揖。

手をこまねき腰をかがめてお辞儀する

「同じように人々が次から次へと部屋から走り出て、**全身軍装**の劉軍長に対して手をこまねき腰をかがめてお辞儀した。」

(当代/陳忠実『白鹿原』)

“一以外の数詞+身+N”の場合、名詞はほぼ「衣服」の意味しかなく、“Num 身 N”の機能は指示機能しかなかった。“一以外の数詞+身+N(衣服)”の出現は清代であり、ほとんどが“几 [いくつ]”、“两 [二]”、“三 [三]”のどれかで、四以上は稀だった。(28) に清代の“一以外の数詞+身+名詞 (衣服)”の例を示す。

(28) 清・指示機能 (目的語)

衣裳 原 是 被 济公 偷了 去, 和尚 拿着 五身 衣服,
衣装 元々 COP PASS 济公 盗む-PERF 行く 和尚 持つ-DUR 五-CLF.clothes 衣服

来到 郑雄家 见了 赵斌, 叫 赵斌 拿着 三身 官人 的 衣服,
来る 鄭雄家 会う-PERF 趙斌 CAUS 趙斌 持つ-DUR 三-CLF.clothes 役人 NMLZ 衣服

附耳 如此这般这样这等。

耳打ちする かくかくしかじか

「衣装は元は済公に盗まれたもので、和尚は**5 着の衣服**を持って鄭雄家に行き、趙斌に会って**3 着の役人服**を持たせ、かくかくしかじかであると耳打ちした。」

(清/『済公全伝』)

5. 分析

“Num 身 N”における“Num 身”の用法について3節の結果を分析すると、まず、全体の相対的な用例数は清代にかけて増加し、当代にかけてやや減少している(図1)。次にNの意味に注目すると、①「付着物」・「容姿」を表すNを修飾する用法が最初にあり、②意味の近い「衣服」を修飾する用法が派生し(、④“一”以外にも拡大し)、③「抽象物」に拡大した、と分析できる(図1)。それぞれの変化の時期と変化の意義を以下に示す。

- ① 南宋代: “身”が身体そのものを表す「容姿」に対する臨時量詞になり、また、メトニミーによって、身体上の「付着物」に対する臨時量詞になる
- ② 元代: 「付着物」・「容姿」から「衣服」への拡張が起きた
- ③ 明代: 具体物から抽象物への拡張が起きた
- ④ 清代: 衣服を計量する量詞“身”が確立した(共起する数詞が“一”以外に拡張したことからわかる⁸)

また、初期の南宋代を除けば、全体を通して「付着物」+「衣服」が用例の大半を占めていることも第4節の結果から指摘できる。このことから、量詞/臨時量詞としての“身”の中心的な用法はこれらを修飾することに移ったとわかる。これは、「付着物」や「衣服」と“身”を結び付けることが「抽象物」などに対してより直接的なメトニミーだからと考えられる。描写性臨時量詞は事物を領域としてとらえなおす現象(加納 2017)なので、より具体性のあるものが中心的用法なのは自然である。

次に、“Num 身 N”の機能についてまとめると、“一”以外の数詞を伴う“Num 身 N”は、指示機能しか持たず、“身”が通常的量詞として名詞句を形成していることがわかった。一方で、“一身 N”については、元代以降叙述機能が増え、明代以降は修飾機能も現れたことがわかる(表3・図2)。“是”を伴う叙述機能の文はそれより遅い明代に現れ、割合も多くない。

“一身 N”のうち、コピュラなしに直接的に述語の位置を占める名詞述語文の用法がコピュラありの用法よりも圧倒的に多いことは、“一身 N”の叙述機能が確固として確立していることを示す。第2.1節で述べたとおり、描写性臨時量詞を含む名詞句が描写を担うことは、描写性臨時量詞の重要な特徴であり、叙述機能とともに修飾機能も発生していることはその特徴の表れである。

叙述機能の増加は、“一身 N”に限らず、“一+量詞+名詞”構造一般が叙述機能を有するようになったという変化である可能性がある。島(2020)は、別の器官名詞“脸”[顔]を用いた“一+脸[顔]+名詞”構文においても同じく叙述機能が増加していることを指摘しており、“一+量詞+名詞”構造一般の変化であるという見方を支持する。

⁸ ただし、共起する数詞に偏りがみられる(ほとんどが“几”[いくつか]、“两”[二]、“三”[三]のどれか)ので、量詞としての機能を十分に発揮しているわけではない可能性がある。

6. 結論

本論文は、描写性臨時量詞の“身”と衣服を計量する量詞“身”の通時的発展の過程を追った。結果として、(a)“身”の中心的用法は「付着物」を導くものであること、(b) この「付着物」を導く用法から「衣服」を導く用法に拡張し、通常の量詞としての機能を得たこと、(c)“身”を含む“一身N”構造が通時的に叙述機能を発展させてきたことが明らかになった。さらに、“一+量詞+名詞”構造一般に叙述機能が生じる変化が起きた可能性も指摘した。

コーパスを用いて傾向の変化を追うことで初めて、“身”の中心的用法や変化の過程がわかった。臨時量詞の研究にコーパス調査が有効であることを示した。

略号一覧

BEN	benefactive
CAUS	causative
CLF	classifier
COMP	complement marker
COP	copula
DUR	durative
GEN	genitive
NEG	negation
NMLZ	nominalizer
PASS	passive
PERF	perfective
PL	plural
POSS	possible
PROG	progressive

参考文献

- Croft, William. 2001. *Radical Construction Grammar: Syntactic Theory in Typological Perspective*. Oxford: Oxford University Press.
- 小野秀樹 (2008) 『統辞論における中国語名詞句の意味と機能』 白帝社. 東京.
- 加納希美 (2017) 「現代中国語における数量詞の構文機能：属性・様態描写の機能を中心に」 博士論文, 東京大学.
- 島健太 (2020) 「描写性臨時量詞“脸”の通時的発展」 日本中国語学会 2020 年度全国大会 (第 70 回) 口頭発表. 愛知大学 (オンライン). 2020 年 11 月 7 日.
- 刘晨红 (2007) 「器官名词作临时名量词的认知分析 [器官名詞が臨時名量詞を担う場合の認知的分析]」 『修辞学习』 2007(3), 74-77.
- 殷志平 (2000) 「关于“一身冷汗”一类短语的性质和特点 [“一身冷汗”の類の句の性質と特性につ

いて]」『汉语学习』2000(4), 32–34.

朱德熙 (1982) 『语法讲义 [語法講義]』北京: 商务印书馆.

コーパス

詹卫东, 郭锐, 谌贻荣 (2003) 「北京大学中国语言学研究中心 CCL 语料库 (规模: 7 亿字, 时间: 公元前 11 世纪–当代)」, URL: http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus

The Diachronic Development of Classifier *shen*

SHIMA Kenta

kshima1138@gmail.com

Keywords: Mandarin Chinese, classifier, temporary classifier, corpus linguistics

Abstract

In Mandarin Chinese, there is a class of “temporary classifiers” that use nouns as classifiers (Zhu 1982), of which “descriptive temporary classifiers” have the function of expressing the state in which an area is filled with things, rather than the function of measuring (Kano 2017). The word *shen* “body” can be used as a descriptive temporary classifier, and it can also be used as a normal classifier for measuring clothes. This paper introduces the similarities and differences between the two usages of *shen*, and then summarizes the diachronic development of the two through a corpus survey. The results show that (a) the central usage of *shen* is the one followed by nouns denoting “adhesive” entities, that (b) this usage followed by “adhesive” has been extended to that followed by nouns denoting “clothes” and has acquired the function of a classifier, and that (c) “*yī* (“one”) + *shen* + N” constructions including *shen* have been developing their predication function diachronically.

(しま・けんた 東京大学大学院)